

**[調査報告] 内モンゴル自治区・遼寧省における唐・契丹国（遼朝）・金時代の遺跡・文物調査報告**

その他のタイトル	[Report of field work] A Report on Relics and cultural relics of the Tang, Liao and Jin dynasties in Inner Mongolia and Liaoning
著者	森部 豊
雑誌名	史泉
巻	129
ページ	A8-A13
発行年	2019-01-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00020709">http://hdl.handle.net/10112/00020709</a>

〈調査報告〉

内モンゴル自治区・遼寧省における  
唐・契丹国（遼朝）・金時代の遺跡・文物調査報告

森 部 豊

二〇一八年八月二十八日から九月一〇日まで、中国の内モンゴル自治区および遼寧省に散在する唐、契丹国（遼朝）、金にかかわる遺跡・文物の調査をおこなった。以下、その概要をごく簡単に報告する。

一 調査概要

八月二十八日 大阪（関西国際空港）から北京経由でホロンバイル市ハイラル（海拉爾）区へ。同地泊。

八月二十九日 ハイラルから東へ。大興安嶺の中に入り、北魏を建国した鮮卑拓跋族の発祥の地とされている嘎仙洞（写真一、二）の調査。洞窟の入口は天井が低いが、奥へいくほど高く、かつ広くなっている。洞窟入口左手に、有名な北魏皇帝が使者を派遣した際の祝詞の全文が刻まれているが、現在は金属の保護カバーで覆われ、オリジナルをみることはできない。現地スタッフの説明では、この碑文が「発見」されてほとんどなくして、猟銃が暴発し、碑文にダメージが加えられたという。オロチョン（鄂倫春）泊



写真一 嘎仙洞



写真二 嘎仙洞入口銘文

八月三〇日 オロチョンから再び大興安嶺を横切り、ホロンバイル平原へもどる。金の時代（一一一五年―一二三四年）の長城（金界壕という）を遠望し、黒山頭城遺址（写真三）を調査。エルグネ（アルグン・額爾古納）の街へもどり、エルグネ民族博物館を参観。エルグネ泊。

八月三十一日 エルグネからロシヤとの国境沿いに西へ移動し、満洲里にいたる。途中、ジャライノール（扎賚諾爾）で鮮卑古墳群



写真四 鮮卑墓群



写真三 黒山頭城遺址



写真六 成吉思汗廟



写真五 金界壕蹶子山段

(写真四) とジャライノール博物館を参観。

九月一日 満洲里からハイラル区へ移動。その途中、ホロンバイル平原にある浩特陶海古城遺址を調査。浩特陶海古城は遼代の城郭都市遺跡で、「通化州城」に比定されている。この遺跡は呼倫湖以東、アルグン河一帯の辺防 城としての防備も担っていたとされる「[今野二〇〇五]」。ハイラル区にもどり、ホロンバイル民族博物館を参観。その後、ジャラントン（扎蘭屯）へ移動、宿泊。

九月二日 この日は雨。朝から午前、やや強い雨。その中、金界壕（写真五）の調査。内モンゴル自治区と黒竜江省との境界に沿って、かつての金界壕が良好に保存されている。我々は、その一段の「蹶子山段」を調査した。この後、ウランホト（烏蘭浩特）市へ移動し、興盟旗博物館を見学後、成吉思汗廟（写真六）を参拝。ちなみに、この廟は「満洲国」時代に創建されたものである「[田中二〇〇九]」。

九月三日 この日は、ウランホトからジャラント（扎魯特）旗へ移動。午前中は移動。午後、ジャラント旗の街を通過し、境内にある金界壕（写真七、八）の調査。この地域の金界壕は、八八〇〇メートルほど残り、また城郭をともなった要塞ものこる。ジャラントの街へもどる途中、豫州城遺址にたちよる。豫州城遺址は、契丹国（遼朝）時代の頭下軍州、すわち皇族や有力部将の私城の一つである。『遼史』卷三七「地理志・頭下軍州条」に「豫州。横帳陳王の牧なり。南のかた上京に至るに三百里。戸五百なり」と記される。

九月四日 朝一番にジャラント博物館を見学。お昼に巴林左旗の林東鎮に到着。契丹国（遼朝）の上京遺址があるところである。昼食後、まずは契丹国（遼朝）初代皇帝、太祖・耶律阿保機の墓陵である



写真八 金界壕（ジャルト）



写真七 金界壕（ジャルト）



写真一〇 祖州城内の石室



写真九 祖陵



写真一二 祖陵入口・龍門



写真一一 祖州城



写真一四 遼上京・乾徳門



写真一三 祖陵から龍門を望む



写真一六 遼上京の南にある遼塔



写真一五 遼上京西城壁

祖陵（写真九）参詣。祖陵は自然の山を利用してゐる。それは、ちよど馬蹄の〇のような形で、奥まったところに祖陵がある（写真一〇、一一、一二、一三）。入口外には、祖陵の奉陵邑である祖州城があり、城壁が現存する。武田二〇一四」。祖陵参詣後、遼上京遺址（写真一四、一五）へいき、進行中の考古発掘現場を参観。詳細は、次節にまわす。

九月五日 午前中、林東の北のこる遼の北塔を見学。ついで、遼上京遺跡を調査。西門から入り、城壁と城内を徒歩でまわる。その後、南塔（写真一六）へ。林東の南の丘陵の中腹に位置し、遼上京遺跡が遠望できる。そして、巴林右旗博物館を参観後、内モンゴルをあとにし、遼寧省界に入る。朝陽泊。

九月六日 この日は一日朝陽。午前中、朝陽市博物館を表敬訪問し、ついで地下倉庫に保管されて

いる唐代墓誌の「朱寿墓誌」「劉祖墓誌」の二点を調査させてもらおう。午後から関帝廟を見た後、大遼河東岸の双塔区博物館を調査。

九月七日 朝陽を出発し、北票へ向かう。北票博物館を見学した後、耶律仁先墓へむかう。午後、阜新博物館と阜新蒙古族博物館を見学。阜新泊。

九月八日 朝、北鎮へ移動。午前中、医巫閭山山中で発掘中の瑠璃寺遺址の見学。午後から医巫閭山山麓で発掘中の契丹（遼）墓の見学。ともに契丹国（遼朝）史研究上、重要な遺跡である。次節で詳しく紹介する。

九月九日 北鎮から遼寧省の省都・瀋陽へ移動。瀋陽故宮を見学。昼食をばさんで遼寧省博物館の参観。旧大和旅館に投宿。

九月一〇日 帰国。台風二十一号の影響で関西国際空港が利用不能なため、瀋陽からソウル経由、福岡着便で帰国。

## 二 主要調査地点と新発見遺跡

### （一）遼寧省北鎮瑠璃寺遺跡

この遺跡は、遼寧省北鎮市富屯街道龍崗子村の西北の医巫閭山中、現地では「二道溝」と呼ばれている場所にある。海拔六六〇メートルほどの地点で、山をかなり上った場所になる。この遺跡は林の中あり、二〇一七年から発掘が行われている。考古発掘の結果、前・中・後の三部分の建築基壇があることがわかり、遼・明・清の三代にわたって造営された建築物の遺跡であることが判明した。

特に遼代的大型建築基壇が発掘されており、瑠璃瓦のほか、灰陶な

どの建築資材が出土している。この建築は、医巫閭山における契丹国（遼朝）の皇帝陵の陵墓前にあつた建築の遺跡であろうと推測されている。遼寧省北鎮の医巫閭山には、契丹国（遼朝）の皇帝墓のうち、顕陵と乾陵とあるとされるが、その具体的地点は今のところ、確定されていない。この瑠璃寺遺跡の建築群が、そのどちらかの墓陵前の建築物であれば、玄宮の位置も推定できる大きな材料となりうる。これに関しては、次に紹介するもう一つの墓陵遺跡と関連する。

## （二）北鎮新立遺跡

この遺跡は、瑠璃寺遺跡のある山中からふもとに下ったところにある。北鎮市富屯街道新立村桜桃溝村民組の西北約一〇〇メートルの黄土台地上にあり、北鎮の市街地区の西北約八キロの場所にあたる。この遺跡からは、台地の北部から大型の建築遺址とそれに付属する小規模な建築遺址が、その南側に発見された。また、北の大型建築遺址の西南に全長八四メートルもある巨大な墓が、また北には全長四四メートルある墓が発見されている。この二つの墓と建築遺址の距離は極めて近く、両者が密接な関係をもった一群の遺跡であることは疑いないという。

大型建築遺址は、東南方向に向いており、殿門と正殿、そしてその東西南北の四面を回廊でかこんでいる。この遺跡からは、上等な瑠璃瓦や建築材が出土している。正殿の周囲からは、高級な石材が発見されており、これは皇帝の宮殿や皇帝陵の建築にしか使用されないものであるという。また、正殿からは契丹小字と漢字で刻字された破損した玉冊が発見された。さらに遺跡東側の坂からは精緻な彫刻がほどこ

された大型の石螭首が発見されている。

この建築遺跡の構造や出土遺物を、内モンゴルにある有名な慶陵のそれと比較すると非常によく似ていることから、この遺跡は遼代の皇帝陵の玄室の前にあつた祭殿の遺跡であると推測できる。さらに、このエリアの皇帝陵は契丹国の顕陵と乾陵とがあるが、慶陵との近似性や出土文物の時代的特徴から、この遺跡は遼代の乾陵の皇帝陵前の祭殿であるという推測が中国側から提出されている。〔中国文物報〕二〇一八年九月二一日

## （三）遼上京遺跡

内モンゴル巴林左旗林東鎮にある遼の上京遺跡は、近年、発掘が進行し、従来、不明瞭であつた城郭都市内の構造が次第に明らかにされてきている。二〇一六年六月から十月にかけて、遼上京宮城の南門遺址、二号院南廊廡遺址、皇城東門内大街遺址の発掘調査がおこなわれ、報告書もでている。

二〇一八年に訪問した際には、城内の二か所で発掘がすすんでいた。その情報の一部は、ネット上の「文化赤峰網」で公開されているが、正式報告はまだ出ていない。現在、この遺跡は中国社会科学院考古研究所の内蒙古第二工作队と内蒙古自治区文物考古研究所が合同で発掘をおこなっている。遼上京の構造は、「日」の字形で、北部が皇城、南部が漢城からなる二重構造であつたというのが中国の解釈である。二〇一八年六月からは、上京宮城内の発掘がおこなわれ、二か所から大型の建築遺址が発見された。また祭祀坑の跡もみつかつており、馬や犬などが埋葬されていたことが明らかとなっている。

遼上京や祖陵などは、一括して歴史遺産として整備途中にある。遼上京の皇城西門にあたる乾徳門付近が整備され、あわせて周辺の城壁も少し整備がはじまっている。

中国東北三省とそこに隣接する内モンゴル自治区の東部地域には、契丹国（遼朝）、金、元、渤海国などの遺跡が多く、各地の博物館にはそれらの遺跡から出土した文物が所蔵され、一部展示されている。本報告は、そのうち一部の遺跡について、二〇一八年の夏季に発掘をおこなっていたものを取り上げ紹介した次第である。

【付記】本稿は、ISPS 学術システム研究センター委託研究費「平成三〇年度学術研究動向調査等に関する研究」の助成を受けたものである。

#### 参考文献

- 今野春樹 二〇〇五 「遼金代の長城について―その目的と機能の比較―」  
『北東アジア中世遺跡の考古学的研究』（文部科学省科学研究費補助金  
・特定領域研究「中世考古学の総合的研究―学融合を目指した新領域  
創生―」空間動態論研究部門計画研究 COE）、平成15・16年度研究成果  
報告書）
- 武田和哉 二〇〇六 『草原の王朝・契丹国（遼朝）の遺跡と文物』勉誠出版
- 二〇一四 「契丹国（遼朝）の皇帝陵および皇族・貴族墓の占地に  
関する一考察」（デジタルアーカイブ技術による契丹国の歴史考古  
言語資料の復原的研究と集成）研究班 二〇一三年度 研究活動成果  
報告Ⅵ）『真宗総合研究所研究紀要』第三一号
- 田中 剛 二〇〇九 「成吉思汗廟の創建」森時彦（編）『20世紀中国の社  
会システム』京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター研究

（関西大学教授）